

国語

□ 次の文章をよく読んで、あとの各問に答えなさい。(すべての問題は、句読点も一字と数えること)

「大人になる」ための要件というと、ひとは責任感を持つたの、社会的役割(選挙)を引き受けるだの、とかく「きれいごと」を語りがちだが、私見では多くの場合、大人になるとはすなわち①感受性も思考も凝り固まってくることである。

これは、さまざまな要素に目配りをして総合的判断を下せる能力と②ヒョウリ一体をなしているが、現実的で円熟した判断とは、往々にして※因習的で定型的な判断、共同体の一員として生きていける「賢い」判断であることが多い。③大人の入り口に立っている若者たちの耳に、自分の貧乏な経験から、絶えず「世の中そんなに甘くない」と言い含める大人が多いのは困りものである。

サルトルは、感受性や思考が型通りになってしまうた人間を「くそまじめな精神」と呼んで最も軽蔑した。「くそまじめな精神」は、自分や他人の「本質」から何もかも引き出そうとする。Aは「信用のおける男」だから信じていい、Bは「卑劣な男」だから付き合ってはならない、Cは「軽薄な男」だから用心しなければならぬ、というように。

A jつは一人の人間がなぜあるときある行爲を実現するかのメカニズムは、まったくわからないのだ。ある行爲の「原因」はほぼ無限大であり追跡不可能であるのに、われわれは行爲の「あとで」その一握りの要因を「動機」として選り出し、「それらが行爲を動かした」というお話をでっち上げているだけなのである。

動機ばかりではない。jつは世の中で解決済みとみなされている因果律、意志、善悪、自由、存在など、いったいこれらの概念が何を意味するのか、いまだに全然わかっていない。哲学をしてよかつたことは、世の中のほぼすべての事柄は厳密に考えれば何もわからないのだ、ということが身体の底からわかつたことである。

とくに哲学にのめり込まなくても、青年のころは多少こういう実感を持つものだが、大人になって④厳しい世間の風や波に身も心もすり減らされていくうちに、そんなことはどうでもよくなり、「とにかく生きなくては」という言葉がすべてをなぎ倒してしまう。B「そうならないように、いまから身を引き締めておこう」。

③「一抹の不安とともに、いままさに人生に船出しようとしているきみは、すばらしい可能性を秘めている。それは、きみは希望を捨てず努力すれば何でもできるという無責任な激励ではなく、④きみがどう生きていくかはすべてきみの手中にあるということだ。きみが自分を「才能のない人間」と決めることはそういう自分を選ぶことであり、自分を「もてない男(女)」と決めることはそういう自分を選ぶことである。

この意味で——サルトルとともに言えば——誰でも否応なく「自由」なのだ。だから、すべてを誰かのせいにするのもきみの自由である。面倒なことは考えずに、自分を物のように固めていくのもきみの自由である。すべてを諦めて⑤幽霊のように生きるのもきみの自由である。だが、⑥そういう選択の積み重ねはきみから生きる力をそぎ、きみをますますやせ細らせるであろう。それは、安全で⑥プランカもしれないが、つまらない生き方ではないだろうか。

学力の低い親のもとに生まれたから、教養のかけらもない環境に育つたから、魅力的な肉体の④イテンジを受け継がなかったから……自分はこのなだめ人間なのだ、ときみは言う。だが、とにかく人間のことは皆目わからないということを感じてほしい。

その中で、きみは自分の本質をそう決定し、それが人生を規定すると解釈したのだから、その責任はきみにある。自分の「だめさ」を固定してそれを親や状況のせいにしたのはきみである。その意味で、きみは自分を「だめ人間」として選んだのだ。だから、きみは未来永劫にわたって「だめ人間」になるであろう。

だが、何が一人の人間の行爲やあり方を決定するかは、jつのとこまかつたかわからない。だから、どんな人でもどんな瞬間でも、「いままで」を完全に断ち切つて新しいことを選ぶのだ。

こうした大卒のもと、最後に大人になるための条件を挙げておこう。

大人になるとは、ひとり立ちすること、すなわち親やその他の保護者から独立することである。独立とは主に二つの要件から成っている。一つは、経済的に独立すること。何らかの社会的に認められる仕事をして金を稼ぐこと。これはいいだろう。

だが、もう一つ、これと同じくらい重要な要素がある。それは、金銭面以外でも他人に※依存しない生き方を実現することである。きみが孤独が好きならそれを自力で達成すればいい。本当は人恋しいのに孤独を気取っている限り他人は介入するが、きみが本当に孤独を欲しそれに満足しているのなら、他人はきみを抛つておいてくれるであろう。孤独に徹するのもいいが、一般的に言って、多様な人との付き合いはきみを豊かにしてくれる。

だが、この際とくに言っておきたいのは、きみと異質な人々を切り捨てるのではなく「大切にすること」である。彼らがたとえ理不尽にきみに敵対的であっても、そういう人々との困難な「交流」は長い人生において真にきみの宝になるであろう。

⑦これらの二要件を満たしていれば、もうきみは大人の入り口に立っているのだが、あえてこれらに初め強調した二要件、すなわち、きみがどんなに過酷な境遇にあらうと、なるべくそれを他人のせいにして「私(ぼく)が選んだのだ」と自分に言い聞かせる姿勢を付け加えておきたい。この要件をそなえていけば、きみは特別⑧偉くならないかもしれないし、金持ちにならないかもしれないけれど、強く柔軟で深みのある大人、すなわち「よい大人」になるように思う。

(中島義道「大人になる君へ」二〇〇九年四月十六日『朝日新聞』の文による)

※ 「因習的」……古くからの悪いならわしにとらわれて、新しい考え方を受け付けないさま。

「依存」……他にたよって存在していること。

問1 線①～③のカタカナは漢字に直し、漢字はその読み方をひらがなで答えなさい。

- ① ヒヨウリ ② 敵しい ③ プナン ④ イデンシ ⑤ 偉く

問2 文中のA・Bにあてはめるのに最も適当なものを次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- A そして イ つまり ウ だから エ ところで オ だが

問3 線①「感受性も思考も凝り固まっていく」とあるが、これと反対の内容を述べた部分を、「こと」につながるように2ページ目の文中から一〇字以内で抜き出して答えなさい。

問4 線②「大人の入り口に（ ）困りものである」とあるが、筆者がどのように述べるのはなぜか。「若者たち」、「大人」、「可能性」 「危機感」の四つの語句を必ず用いた上で、八〇字以上一〇〇字以内で説明しなさい。

問5 線③「二抹」という語句の「二」とほぼ同じ意味を持つ熟語を、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- A 同一 イ 一見 ウ 一門 エ 一切 オ 一心

問6 線④「きみがどう生きていくかはすべてきみの手中にある」で、筆者は若者たちにどのようなことを言いたいのか。次の中から最も適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- A 若い人たちにはすばらしい可能性があるので、どんな環境にあっても夢や希望を捨てずに努力し、それを引き出すような生き方をしていかななくてはならない。
イ どう生きていくかは自分の自由なので、自分で何も考えずになんでも他人のせいにするような生き方をしたとしても、それはそれでかまわない。
ウ どう生きていくかは自分で決めることなので、なにがあっても他人のせいにならないで「これは私が選んだのだ」と自分に言い聞かせる姿勢を持つてほしい。
エ 自分の才能は自分の中に持って生まれてくるものなので、自分自身でそれに気付かないようであれば、「だめ人間」として生きていくのも仕方ないことだ。

問7 線⑤「幽霊のように生きる」の「ように」と同じ意味で使われているものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- A 今日是一日すっきりしない天気のように思われる。
イ 赤ん坊のほっぺたはおもちのようにやわらかい。
ウ 私は将来母のように保育士として働きたい。
エ 道に迷わないようによく説明を聞いて出発した。

問8 線⑥「そういう選択」とあるが、それとは別の選択もできると筆者は述べている。それはどのような選択か、「こと」に続くように本文中から二五字以内で抜き出して答えなさい。

問9 線⑦「これらの二要件」とあるが、具体的にはどのようなことか。「こと」に続くように、本文中からそれぞれ八字で抜き出して答えなさい。

問10 本文には次の一文が抜けている。この一文を補うとすればどこが最もふさわしいか。その直前の一〇字を抜き出して答えなさい。
すなわち、自分に居心地のいい人間関係を自力で開拓すること。

□ 次の文章をよく読んで、あとの各問に答えなさい。

このごろのカメラは進歩したから、そんなことはないが、五十年前も昔は、近い所のものを撮るのは骨だった。かつてのカメラでも遠いものはよく撮れた。それなのに、三十センチ以内のものは撮ることができない。おかしい。どうして、遠くが撮れて、近いものが撮れないのか。

そう考えて、ひよっとすると、人間の心の目だって同じかもしれないと気がついた。近い所のことなら何でもよくわかっていいはずなのに、それがA 案外わからない。親はわが子のことなら何でも知りつくしているように思い込んでいるが、その実は何もわかっていないことが多い。

警察沙汰をおこなった少年の親が呼び出されて口にするせりふはきままっている。

「うちの子にかぎって、そんな……」B なのかの間違いです」それで昔から、子を思う親の心は開だと言ったものである。

④ 委ねる。お医者はそのことをおそれ、警戒する。さすがに科学者だけのことはある。外科の名医と言われる人でも、自分の子の手術は他人に委ねる。④ 委ねる。妙な感情がからまると名医のメスも狂うのかもしれない。第三者の方が結果がいいということをあらかじめ計算に入れている。

伝記についても同じようなことが考えられる。アメリカの文豪ヘミングウェイが死んだあと、いくつもの伝記が出た。それらの伝記ははじめからC 問題にならなかった。あんな伝記ではヘミングウェイの本当の生涯はわからないと思った。

なぜか。書いたのが、奥さんだったり、近親者だったり、年来の飲み仲間だったりしたからである。そういう人なら、いちばんよくヘミングウェイを知っていたのではないか。伝記の筆者としてもっとも適任ではないか。そんなことを言う人は伝記というものについてよく考えたことがない、ついでに言えば、人間がよくわかっているのではないのである。

とにかく、あまりにも近すぎる。空気のようになったものを、われわれははつきり意識にのせることができるだろうか。できない。水を発見したのがだれであるかわからないが、魚でないことははつきりしている。魚は近すぎる。人間のいちばん大事な部分は、たえずくりかえしてたり、言ったりして、空気のように感じられるものから成り立っている。それを日ごろから親しんでいる人は、D 同じ空気になるていて気付かない。珍しいことばかり覚えていて、iii 枝や葉ばかりに気をとられて、iv コンカンを忘れるのだ。そういうものを書き集めたものは伝記として長い生命をもたない。

それに比べて、生前ほとんど面識もなかったような人の書く伝記がかえって信頼できる。v シキン距離を写し出すことのできないカメラの目はすこし離れた所のものにははつきりピントが合わせられる。

伝記よりもすこし大きな規模のものごとを考えても同じことが言えるのである。歴史というものは、だいたい古い時代の歴史から固まる。学問が進むにつれて時代を降りてくる。ところが、いくら現在に近づこうとしても、三十年以内まで接近することは難しい。

そうは言っても、ときに「現代史」を名乗るものがないわけではない。しかしながら、そういう現代史はたいてい、朝のvi 露のように消えて、後に残らない。

歴史の目はすこし距離のあるものを見るのに適している。ごく近くのものにはぼんやりとしか見えない。もし、近い所がはつきりわかるなら、自分がどうしたらいいか判断できるはず。そうならば歴史家はたいへんな賢者にならなくてはならない。遠い歴史上の事件に対しては明快な見解を示すことのできる歴史家が、自己の生活に関しては実に愚かなことをしていることがすくなくない。われわれは歴史家の示す現代の解釈をあまり信用することはできない。それは歴史家が悪いのではない。人間ならみな同じだ。遠いものは見えるが、ごく近くのものが見えないようになっていく。近い所をvii アヤマらずに見るには神様になるよりほかないだろう。

しかし、それほど悩むことはない。「いま」は「いま」でも、三十年経てば過去になる。五十年経てば歴史になっている。そのときよく見ればいいのである。もうとんでもない見当違いをする心配もすくなくない。せつかな人がピンボケになるのも知らずにいるんなことを言うものだから恥を後世にさらさなくてはならなくなる。君子は危きに近寄らない。

十九世紀のイギリスの大詩人ジョン・キーツは酷評のために命を縮めた。この天才の作品が同時代の批評家の目には何かお化けのように映ったらしい。さんざんな悪評が雑誌に出た。それに対してはつきり弁護する批評もなかった。かねて結核に苦しんでいた詩人にとつて、これらがどんな大きな打撃になったか想像に余るものがある。とうとう二十五歳という若さで世を去った。

あとになってキーツをやつつけた批評家、その批評をのせた雑誌は文学史上の笑いものになったが、本当はだれにも笑う資格はない。笑う人間自身も同じことを「現代」においてしているに違いないからである。

viii 夏目漱石はいまだ国民文学の大家となつていて。ところが、今から百年前にはやはり、さんざんな目に遭つていて。その低徊趣味があちらでもこちらでも ix 檜玉に上がった。他方では島田清次郎が天才として文壇でもはやされたのである。一世経つたいまから見ると信じたいほどの x ひが目である。しかし、それが人間の判断の宿命だから、ひとのことは責められない。

科学でも遠くのこととはよく見えるのに近くのこととはよくわからないらしい。何月何日何時分から日蝕がはじまるというようなことはわかっていくくせに、どうして、雨がふるとリニューマチが悪くなるのか、どうして、台風が近づくとぜんそくの発作が多くなるのか、また、どうして風邪をひくのか、というようなことははつきりしないらしい。

このように遠くのものがよく見えて、近いものが見えにくい、それが人間の認識の基本的性格である。ことわざはそれを、あつさり、「灯台も暗し」とやつていて。xi 理屈を言わないところが心にいく。

「亭主にはうちのことがよくわからない。そういうことわざがヨーロッパにあり、「知らぬは亭主ばかりなり」というのがわれわれの国では有名である。似たような意味だが、すこし違う。

イギリスには、「ロンドンのニュースは田舎へ行ってきけ」ということわざがある。私はかつて、イギリスとアメリカの週刊新聞をそれぞれとつて、イギリスのニュースをアメリカの新聞で読み、アメリカの事件はイギリスの新聞で読むということをしていたことがある。かえって正しい理解が得られたように思った。「ロンドンのニュースは田舎へ行ってきけ」というのはまさにそれである。

やはり、ヨーロッパのことわざだが、「従僕に英雄なし」というのがある。いつも身近に仕えている従僕にとつて、ご主人はあまりにも近い存在である。本当のことはよくわからない。あるいは、つまらぬ欠点のみが目につく。富士山に登る人が石ころばかりの山で、これどこが名山なのか、すこしもわからない、と言つたという話がある。それに似ている。

また、ヨーロッパ人は「名著を読んだら著者に会うな」という。会いに行つては著者が迷惑するというのではない。本から受ける感動は作者を遠くにながめているという関係から生じることがすくなくない。それをなまじ会つたりすれば、その感動が消え失せないとかがざらない。想像していたものとあまりに違った著者を目のあたりにすれば、幻滅がおこるかもしれない。文字通り敬遠しておいた方が、読者自身のためにもよい。せつかく離れたところにいるのに、わざわざ求めて暗い灯台のもとへ飛び込んで行くことではないか、というのである。これもまたなかなか味なことばだ。

当人、当事者ではものがよくわからない。そのことを言つたのが xii 傍目八目である。

碁の勝負を対局者ではなく、わきで見ていると先の手まで見える。八目くらの差がある。

「本人がいちばんよく知っているだろう」よくそう言うが、本当は本人がいちばんわからない。だからこそ「人のふりみてわがふり直せ」ともいのである。

人間はだれだって、わが身がかわいい。近くににいるものがかわいい。遠くのことはどうでもいい。そういう利己主義、自己中心主義におちいりやすい。それではしかし、人間に進歩はない。逆に、近い所より遠い所へ興味をもつ。そういう本能も働いている。それが好奇心というものである。好奇心はいつも遠くを珍しものを追求める。

近くを愛する自己中心主義と遠くへ目を向ける好奇心の二つがほどよく調和したとき、近い所から遠い所までがほぼ一様に視野に入ることになる。ところが、どうも一方的自己中心主義による失敗が多い。それで xiii 灯台も暗し」ということわざが必要になるのである。

(外山滋比古『ことわざの論理』ちくま学芸文庫の文による)

問1 線①～⑤のカタカナは漢字に直し、漢字はその読み方をひらがなで答えなさい。

- Ⓐ 委ねる Ⓑ コンカン Ⓒ シキン Ⓓ 露 Ⓔ アヤマらず

問2 文中のA、Dにあてはめるのに最も適当なものを次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- ア やはり イ きつと ウ つまり エ かえつて オ ほとんど

問3 線i～vの慣用句の意味について、最も適当なものを次の中からそれぞれ一つ選び記号で答えなさい。

- 〔慣用句〕 i 「骨だった」 ii 「心は闇」 iii 「枝や葉」 iv 「槍玉に挙げた」 v 「ひが目」
〔選択肢〕 ア 偏見 イ 末節 ウ 困難 エ 非難 オ 盲信

問4 線①「夏目漱石」について、この人物の著書を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 蜘蛛の糸 イ 走れメロス ウ 銀河鉄道の夜 エ 坊っちゃん オ 伊豆の踊子

問5 線②「理屈を言わないところが心にくい」とあるが、この意味を説明したもののうち、最も正しいものはどれか。次の中から一つ選び記号で答えなさい。

- ア どうしてかという理由を言わないので歯がゆく感じる。
イ 説明がなくても分かるだろうという態度が腹立たしい。
ウ 説明しなくても分かるように表現してある点にうまさを感じる。
エ 深い意味を持たないが、例え話として良くできていて素晴らしい。

問6 線③「傍目八目」ということわざが用いられる例として間違っているものは次のうちどれか。一つ選び記号で答えなさい。

- ア クイズ番組で、観ている方は簡単に感じても実際にその場にいると難しい。
イ 一本一本の木に注目していると、山の全体像はわからなくなってしまう。
ウ 自分では全く気づいていないようなくせを、周りの人に指摘される。
エ 意見が対立している二人よりも、第三者の方が正しい意見を理解できる。

問7 線④「灯台もと暗し」ということわざを、筆者はどのような意味で必要になると言っているか。解答欄に合う形で、文中の言葉を用いて答えなさい。

人は 一五字以内 から、 一五字以内 までである。

